

## 笛の薬師（篠山町）

篠山鳳鳴〈ほうめい〉高等学校が建っているあたりといったいの丘を、笛吹山といい、そこにまつられている薬師如来〈によらい〉を、笛の薬師といいます。毎年、三月十四日の春の大祭には、大阪や京都から参拝〈さんぱい〉される方もあります。

むかし、源平合戦〈げんぺいがっせん〉たけなわの頃、源氏〈げんじ〉の大將義経〈よしつね〉は、摂津〈せつつ〉の一の谷へむかうため、この丘に着きました。馬上〈ばじょう〉ゆたかに源氏の精〈せい〉兵を引連れ、丹波路〈じ〉を進む若く勇ましい義経の姿に、人びとは目をみはったことでしょう。馬から下りた義経は、早速、家来〈けらい〉に持たせてあった笛をとり出させ、かの有名な「足びきの笛吹山の松風に、萬代〈よろづよ〉秋のしらべこそすれ。」（大江匡房の古歌）という、歌にあわせて、一曲をかなで、この笛を奉納〈ほうのう〉して、ふたたび馬上の人となりました。それから、この山を笛吹山、薬師如来を、笛の薬師というようになったと伝えられています。

今は、子宝〈こだから〉薬師ともいわれ、子どもを授〈さづ〉かりたい人が、お参りして、願をかけるとふしぎにも子どもが生まれるそうです。

